



両市町のサービス水準は 基本的に高い方に合わせて

調整

合併の最終判断は住民の皆さんにさせていただくという基本方針のもと、合併した場合、両市町の住民にとってのメリットとデメリットを詳細に試算した結果、全行政サービス884項目をそれぞれ水準の高い方に合わせた場合でも、その経費を改革効果で生み出される経費が上回ることから、両市町住民にとってメリットは大きいものになりました。

課題は主に3つに集約され、まず第1には、旧野田市側の皆さんにとっては、両市町の財政力の違いによって、合併後の住民サービス水準が引き下がってしまうのではないかとということ、第2に、関宿町側の皆

合併に際しての 3つの課題

合併前に皆さんの関心が高く、

課題となっていたのは、旧野田市と関宿町で異なっている行政サービスや住民負担の内容の違いなどでした。

さんにとっては、町役場の機能が旧野田市側に集約されてしまい、住民サービスが利用しにくくなるのではないかとということ、第3に、両市町にとって合併することによる具体的なメリットがわからないということでした。協議会では、第1と2の課題は事務事業調整の中で、第3の課題は新市建設計画の中で検討していくこととしました。

両市町のサービス水準を 事務事業調整で統一

行政サービスは、保育業務や介

護保険事業、住民票交付などの窓口業務、学校教育、消防など、極めて多岐に渡ります。

また、その対価として、住民負担となる税金や各種利用料金、ごみ出しルールなどの決め事なども、両市町で異なるところがありました。

協議会では、両市町の皆さんの不安を払拭するため、抽象的な表現で問題を合併後に先送りせず、事前にすべての行政サービスと、住民負担を洗い出しました。

結果、884項目のサービスや負担のすべてそれぞれに事務事業を統一した場合の行政経費の増加額を

合併を祝って 新野田市の第一声



合併当日に文化会館で行われた記念式典



行政サービスは両市町の高い方に合わせるとともに、さらに収税課窓口では平日夜間と日曜も開設